

病床削減が地域医療構想の実現に資するものであることの説明資料

病院等の名称	瀬戸病院
見直しを行った機能	慢性期病棟
H30許可病床数からの削減数	32
変更年月日	R2.6.30

1 地域の状況		
地域の現状と課題	地域医療構想によると、2018年の宇部・山陽小野田地域の病床数は4510床、2025年の必要数は3208床となり、1302床の病床を削減する必要があるとされている。特に、急性期及び慢性期病棟が過剰で、回復期病棟が不足しているとされている。	
2 自施設の状況		
自施設の現状 (変更前)	整形外科単科病院で、骨折などで疼痛の為自宅生活が困難になった患者様、整形外科の専門的保存的治療が必要となった患者様や、手術後のリハビリ目的の入院患者様を多く受け入れていた。運動器リハビリに力を入れ、在宅復帰率は高かった。他病院で断られた救急患者様に対しては、可能な限り受け入れるようにしていた。	
病床数の見直し	見直しの考え方	地域で慢性期病床が過剰であること、山陽小野田市には、山口労災病院と山陽小野田市民病院があり、いずれも整形外科の専門的な入院治療が可能な病院である事から、当院が入院機能を廃止しても地域の整形外科医療には大きな迷惑は掛からないと考えた。診療所となった後は、訪問診療や往診、訪問リハビリテーションなどの機能を新たに備えていく事で、地域が必要とされている在宅医療に貢献したいと考えている。
	対象の病棟・病床の概要	療養病棟32床を削減し、無床診療所へ変換を行った。現在は同じ建物で整形外科クリニックとして診療を行っている。
	入院患者への対応	当院の平均在院日数は24日程度と短く、ほとんどの患者様で自宅退院が可能であった。自宅退院が困難な患者様数名に対しては、転院及び介護施設への転所を依頼した。
3 病床削減が地域医療構想の実現に資するものである理由		
理由	下記にお示しするように、当地方では、慢性期病床を含む全体の病床数が過剰とされており、病棟削減が地域医療構想の実現に資するものと考えます。	

【参考：H30病床機能報告(宇部・小野田保健医療圏の状況)】

病床区分		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・ 廃止予定	介護保険施設 移行予定	合計
報告	①H30(2018)現状	382	1,940	408	1,723	57		4,510
	②R7 (2025)予定	371	1,762	768	1,229	53	355	4,538
構想	③R7 (2025)必要数	328	937	879	1,064	-	-	3,208

④構想との差(H30)(①-③)	54	1,003	△ 471	659	-	-	1,245
⑤構想との差(R7) (②-③)	43	825	△ 111	165	-	-	922